



2024年2月14日

各位

会社名 株式会社トライアイズ
代表者 代表取締役社長 東郷 薫
(コード 4840 東証グロース)
問合せ先 管理部IRG課長 高橋 圭紀
電 話 03(3221)0211

特別損失の計上及び2023年12月期連結業績予想と実績値の差異に関するお知らせ

2023年3月1日「第2四半期業績予想及び通期業績予想の修正に関するお知らせ」にて公表いたしました2023年12月期(2023年1月1日~2023年12月31日)の連結業績予想と実績値との間に差異が生じたので、下記のとおりお知らせいたします。

記

1. 連結業績予想との差異

2022年12月期連結業績予想と実績値との差異 (2022年1月1日~2022年12月31日)

(単位:百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想(A)	676	1	157	110	14円21銭
実績(B)	636	△8	227	102	13円10銭
増減額(B-A)	△39	△9	69	△8	-
増減率(%)	△5.9	-	44.4	△7.7	-
(参考)前期実績 (2022年12月期)	721	△104	△209	468	60円14銭

2. 差異の理由

売上高については、投資事業が計画を上回ったものの(計画比6.8%増)、建設コンサルタント事業及びファッションブランド事業が計画を下回ったことにより(それぞれ計画比6.4%減、9.8%減)当社グループ全体の売上高としては636百万円(計画比5.9%減)と計画を下回る結果となりました。売上高は計画を下回る結果となったものの、建設コンサルタント事業において採算性の高い案件を効率的に実行したこと及び投資事業において未稼働物件の固定費負担がなくなり収益性が改善したことにより、売上総利益は331百万円(計画比4.0%増)と計画を上回る結果となりました。しかし、当連結会計年度において人材の補強を積極的に行った結果、販売費及び一般管理費が339

百万円（計画比7%増）と計画を上回る結果となりました。そのため、売上総利益は当初の予測を上回ったものの販売費及び一般管理費の増加を賄うには至らず、8百万円の営業損失となりました。

当連結会計年度において海外連結子会社の預金利息が通年を通して高金利であった影響を受け、受取利息が65百万円（計画値は8百万円）と当初の予想を大幅に上回る結果となりました。この受取利息の計上を受け、営業外収益は245百万円（計画比47.4%増）と計画を大幅に上回る結果となりました。営業外費用については9百万円（計画比5.7%減）と概ね計画通り推移したため、経常利益は227百万円（計画比44.4%増）と計画を大幅に上回る結果となりました。

当連結会計年度は固定資産売却益9百万円、新株予約権戻入益12百万円を計上した一方、当社の海外子会社である TRIIS INTERNATIONAL AMERICA INC.が保有する投資有価証券について、株式の実質価額が著しく低下したため、「金融商品に関する会計基準」に基づき、投資有価証券評価損74百万円を特別損失として計上いたしました。この結果、税金等調整前当期純利益は166百万円（計画比6.1%増）と計画を上回る結果となったものの、法人税等が63百万円（計画比39.4%増）と当初の予測を上回った結果、親会社株主に帰属する当期純利益は102百万円（計画比7.7%減）と計画値110百万円を僅かに下回る結果となりました。

以上